

《新刊紹介》

谷木由利著

『中学校国語科における音読・朗読指導の実践的研究』

本書は、徳島県で教鞭をとつておられる谷木由利氏が、平成元年から二年間、鳴門教育大学で研究された成果である。著者が求め続けてこられた「朗読を通して力のつく学習を」というテーマが、四つの章で追求され、深化されている。

第一章「音読・朗読指導の動向と課題」では、戦後日本の音読・朗読指導が史的に考察され、朗読指導と話し言葉の学習・朗読指導と学力の関連などが課題として提示されている。第二章以下の三つの章では、第一章で提示された課題について、大村はま氏の実践を通じ、その朗読指導の理論・方法から指導者自身の朗読修業にいたるまでの広く深い範囲に学んでおられる。文学を味わうための朗読内容をそのまま話すように伝える朗読……。大村はま氏の精神に学ばれた著者ならではの研究である。

今日、イメージ形成や理解を助ける働きなど、音読・朗読指導の意義について多くの提言がなされている。毎時間当たり前のように行われていた音読・朗読の意義と必然性が問い直される時期に、「一人一人の話しことばを生かしながら、優秀を越えたところで、対話を基礎とした話しことばの基本に立ち還」つてみることは大いに意義あることであろう。表現豊かにイメージを膨らませて読めば読むほど、教室に気はずかしさが広がるのを感じるような時、切実な心情を通じ合おうとして営まれる我々の談話生活にまで立ち戻って、話し言葉の本来の姿から問い直すことは、「真に人間性育成を目指した国語学習指導」に新しい視座を切り開くものであろう。氏も御自身の課題として提示されておられるように、これらの理論に基づく氏の実践集が、今後、楽しみに待たれる一冊である。

(A5判 二二五ページ 一九九三年二月一日 溪水社)

三五〇円)

(森 智子)